

第1号書式(B5)
建築基準法第18条
第2項の規定による

62-10
計画通知書(建築物)

建築法6条1項			
1	2	3	4号

大阪府下特定行政庁共通用紙

昭和62年12月24日 第 号		通知者官職氏名 東大阪市長 北川 謙次	
1.官庁所在地	東大阪市長 北川 謙次		電話 番
2.連絡者氏名	東大阪市長 北川 謙次		電話 番
3.設計者資格 住所氏名 建築士事務所名	() 建築士 () 登録第 () 建築士事務所 () 登録第		
4.建築設備に関し意見を 聴いた者の住所氏名 勤務先名			電話 番
5.工事監理者資格 住所氏名 建築士事務所名	() 建築士 () 登録第 () 建築士事務所 () 登録第		
6.工事施工者 住所氏名			
7.審査の特例	1.建築基準法第6条の2第1項各号に掲げる建築物の建築(同項第1号に 掲げる建築物にあっては新築に限る。)に該当するかどうか 該当するときは建築基準法施行令第13条の2各号に掲げる建築物の区分 2.建築基準法施行令第13条の2第1号又は第2号に掲げる住宅に 該当するときは、当該住宅に係る型式指定番号		する、しない 第1号、第2号 第3号、第4号 第 号
8.敷地の位置	イ、地名地番 ロ、用途地域 ハ、防火地域		東大阪市長 北川 謙次 第1住所、第2住所、住居(近隣商業) 商業、準工業、工業、工業、指定なし 防火、(準防火) 指定なし 法22条
9.主要用途	車 庫		10.工事種別 (新築)増築、改築、移転、用途変更、 大規模の修繕、大規模の模様替
11.敷地面積	申請区分 申請以外区分		合 計
12.建築面積	57 M ² 375		132 M ² 02
13.延べ面積	57 M ² 375		57 M ² 375
15.工事着手予定日	昭和 年 月 日		16.工事完了予定日 昭和 年 月 日
17.その他必要な事項			
18.建築物別概要(第 号)	イ、用途 ロ、工事種別 ハ、構造		ニ、屋根 ホ、外壁 ヘ、軒裏
階 別	階 階 階 階		合 計
ト、申請部分	57 M ² 375		57 M ² 375
中階以外の部分	0		0
合 計	57 M ² 375		57 M ² 375
チ、柱の小径			ヲ、最高の高さ 3.120
リ、横の長さ			ワ、軒の高さ 2.950
ス、階の高さ			カ、居室の高さ
ル、天井の高さ			コ、床の高さ
タ、建物の高さ			ク、使用の種別 水洗、汲水
※ 受入 東大阪市長 北川 謙次			
※ 消防関係通知欄			
※ 決 裁 欄			
※ 通知番号 昭和 年 月 日			

昭和59年7月改正

道路関係	認定道路	都計法等による道	施行の際の道	2年以内の指定の道	位置指定の道	4m未満の指定の道
	その他 ()					
調査及び処理経過						特殊処分事項
審査	受月日					延期通知 月 日 条 項
	済月日					
構造	受月日					
	済月日					
設備	受月日					
	済月日					
	受月日					
	済月日					
	受月日					
	済月日					
関係機関意見記入欄						

建築基準法第18条第3項の規定による

62-10 適合する旨の通知書

通知番号 第 2-17 号
通知年月日 昭和 63 年 1 月 12 日
東大阪市 七川 謙次 殿
建築主事 細川 純 殿
昭和 62 年 12 月 21 日付け第 2-17 号で提出されました

た下記の計画は、建築基準法第18条第3項の建築物の敷地、構造及び建築設備に関する法律並びにこれに基づく命令及び条例の規定（同法第6条の2第1項の規定により読み替えて適用される同法第6条第1項の政令で定める規定を除く。）又は同法第88条に掲げる条項並びにこれに基づく命令及び条例の規定に適合することを通知します。

1 敷地の位置	東大阪市 永和1丁目15-1
2 用途	車庫
3 工事種別	新築
4 構造	鉄骨造
5 建築面積	57.375㎡
6 延べ面積	57.375㎡
(備考)	

建築基準法第18条第7項の規定による

62-10 検査済証

第 2-17 号
昭和 63 年 2 月 16 日
計画通知者 東大阪市 七川 謙次 殿
東大阪市建築主事 細川 純 殿

下記に係る工事は、検査の結果、建築基準法第18条第3項の建築物の敷地、構造及び建築設備に関する法律並びにこれに基づく命令及び条例の規定（同法第6条の2第1項の規定により読み替えて適用される同法第6条第1項の政令で定める規定を除く。）又は同法第88条に掲げる条項並びにこれに基づく命令及び条例の規定に適合していることを証明する。

1	通知書番号	第 2-17 号
2	通知年月日	昭和 63 年 1 月 12 日
3	建築場所又は築造場所	東大阪市 永和1丁目15-1
4	官庁所在地	東大阪市 福葉1丁目1番1号
5	工事完了検査年月日	昭和 63 年 2 月 15 日
6	検査員名	技術員 鈴木 庄太郎 (印)

様式第5の3

F 500

第 18 号

昭和 63 年 1 月 9 日

東大阪市建築主事 殿

東大阪市 西



建築基準法第18条に基づく計画通知に関する通知

本申請の建築物の計画については次のとおり通知
する

消 防 上 支 障 な し

（この通知は、建築主の申請に基づき、消防上支障なしと判断されたものである。）

東大阪市消防本部

62-10

知事殿		昭和 年 月 日		※受付経由機関記載欄(この欄は記入しないで下さい)	
建築主住所氏名 東大阪市稲葉1丁目1番1号		通知番号第		号	
電話 東大阪市長 北川 謙次		通知年月日 昭和 年 月 日			
工事施工者住所氏名 (設計者または代理者氏名)					

A. 建築物について

1. 建築物	イ、種別 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 国	(2) 都府県	(3) 市町村	(4) 会社	(5) 会社でない団体	(6) 個人
	ロ、業種及び資本の額又は出資の総額 (建築主が会社であるときのみ記入して下さい。 右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	業 種		資本の額又は出資の総額 百万円 (1) 1千万円以下 (2) 1千万円超～3千万円以下 (3) 3千万円超～1億円以下 (4) 1億円超～10億円以下 (5) 10億円超			
2. 敷地の位置	イ、地名地番	東大阪市永和1丁目15-1					
	ロ、都市計画 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 市街化区域	(2) 市街化調整区域	(3) 区域区分未設定都市計画区域	(4) 都市計画区域外		
3. 工事予定期間	昭和 年 月 日から 昭和 年 月 日まで 年 月間						
4. 工事種別 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 新 築 (2) 増 築 (3) 改 築 (4) 移 転						
5. 主 要 用 途	車 庫 (業) 用建築物 (建築物に係る業種をできるだけ具体的に記入して下さい。 例…「木材製材業」、「菓子製造業」)						
6. 一の建築物ごとの内容	イ、用途 (1棟ごとの用途を記入し、1棟中3種類以上の用途があるときは「多用途」を○印で囲んで下さい。)	(1) 車庫 多用途	(2) 多用途	(3) 多用途	合 計		
	ロ、工事部分の構造 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 木 造	(1) 木 造	(1) 木 造			
		(2) 鉄骨鉄筋コンクリート造	(2) 鉄骨鉄筋コンクリート造	(2) 鉄骨鉄筋コンクリート造			
		(3) 鉄筋コンクリート造	(3) 鉄筋コンクリート造	(3) 鉄筋コンクリート造			
		(4) 鉄 骨 造	(4) 鉄 骨 造	(4) 鉄 骨 造			
		(5) コンクリートブロック造	(5) コンクリートブロック造	(5) コンクリートブロック造			
		(6) そ の 他	(6) そ の 他	(6) そ の 他			
	ハ、工事部分の床面積の合計	57.375㎡	㎡	㎡	㎡		
	ニ、建築工事費予定額 (建築設備費を含む。)	万円	万円	万円	万円		
	ホ、階 数	地上 地下 階 階	地上 地下 階 階	地上 地下 階 階			
ヘ、棟ごとの戸数	戸	戸	戸	戸			
7. 新築工事の場合における敷地面積	132.02 ㎡						

B. 住宅について

8. この欄の建築物が住宅に該当するかどうか又は記入して下されるときは	イ、住宅の新設とその他 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	新 設 (新築、増築又は改築によって居室、 合所及び便所のある独立して居住し うる住宅が新たに造られるもの)			そ の 他 (増築又は改築によって造られる住 宅で左の新設に該当しないもの)		
		(1) 新 築	(2) 増 築	(3) 改 築	(2) 増 築 (3) 改 築		
	ロ、住宅の資金 (新設住宅のみ右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 民間 資金	(2) 公営	(3) 住宅金融 公庫	(4) 住宅・都市 整備公団	(5) その他	
	ハ、住宅の建築工法 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 在 来 法	(2) プレハ ブ工法	(3) 枠組壁 法	(1) 在 来 法	(2) プレハ ブ工法	(3) 枠組壁 法
	ニ、住宅の種類 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 専 用 住 宅		(2) 併 用 住 宅		(3) その他の住宅	
	ホ、住宅の利用関係 (右の該当番号を○印で囲んで下さい。)	(1) 持 家	(2) 貸 家	(3) 給与住宅	(4) 分譲住宅		
	ヘ、住宅の戸数	戸		戸		戸	
	ト、住宅の工事部分の床面積の合計	㎡		㎡		㎡	

C. 除却建築物について

(次の表は、既存の建築物を除却し、引き続き、当該敷地内において建築物を建築しようとする場合において、当該除却しようとする建築物について記入して下さい。)

除却工事施工者住所氏名	電 話	⑩ 番
-------------	-----	--------

1. 主 要 用 途 (一般地内の全建築物の総括、 的な用途を記入して下さい。)	(業) 用 建 築 物		
2. 除 却 原 因 (右の該当番号を○印で 囲んで下さい。)	(1) 老朽して危険があるため		(2) そ の 他
3. 構 造 種 類 (右の該当番号を○印で 囲んで下さい。)	(1) 木 造		(2) そ の 他
4. 建 築 物 の 数	戸		
5. 住 戸 の 戸 数	戸		
6. 住宅の利用関係 (右の該当番号を○印で 囲んで下さい。)	(1) 持 家	(2) 貸 家	(3) 給与住宅
7. 建築物の床面積の合計	㎡		
8. 建築物の評価額	万円		

(注意) 記入に当たっては、別紙の「記入上の注意」をお読み下さい。

62-10

市町村名	市町村		
確認番号			
確認月日	年	月	日

建築主	氏 名	東大阪市長 北川 謙次			電話	番
	住 所	東大阪市長 北川 謙次				
敷地の位置	地名 地番	東大阪市長 北川 謙次				
	用途 地域	第1住専・第2住専・住居・近隣商業 商業・準工業・工業・工専・指定なし	市街化区域 市街化調整区域			
	防火 地域	防火・準防火・指定なし 法22条	その他の区域、 地域、地区、街区			
主 要 用 途	車 庫	工 事 種 別		新築 増築、改築、移転、用途変更 大規模の修繕、大規模の模様替		
	高 さ	地上 M	地下 M			
申請に かかる 物	階 数	地上 1	階 地下	階		
	構 造	鉄 骨	造 一部	造		
		申 請 部 分	申 請 以 外 の 部 分	合 計		
敷 地 面 積				M ²		
建 築 面 積		57 M ² 375	0 M ²	57 M ² 375		
延 べ 面 積		57 M ² 375	0 M ²	57 M ² 375		
設 計 者	事 務 所					
	所 在 地	東大阪市長 北川 謙次				
	氏 名	東大阪市長 北川 謙次				
施 工 者	事 務 所					
	所 在 地					
	氏 名					
代 理 者	事 務 所					
	所 在 地	設計者と同上				
	氏 名					

住宅の利用関係	持家、貸家、給与住宅、分譲住宅	住宅戸数	X 戸
---------	-----------------	------	-----

62-10

市立郵便局

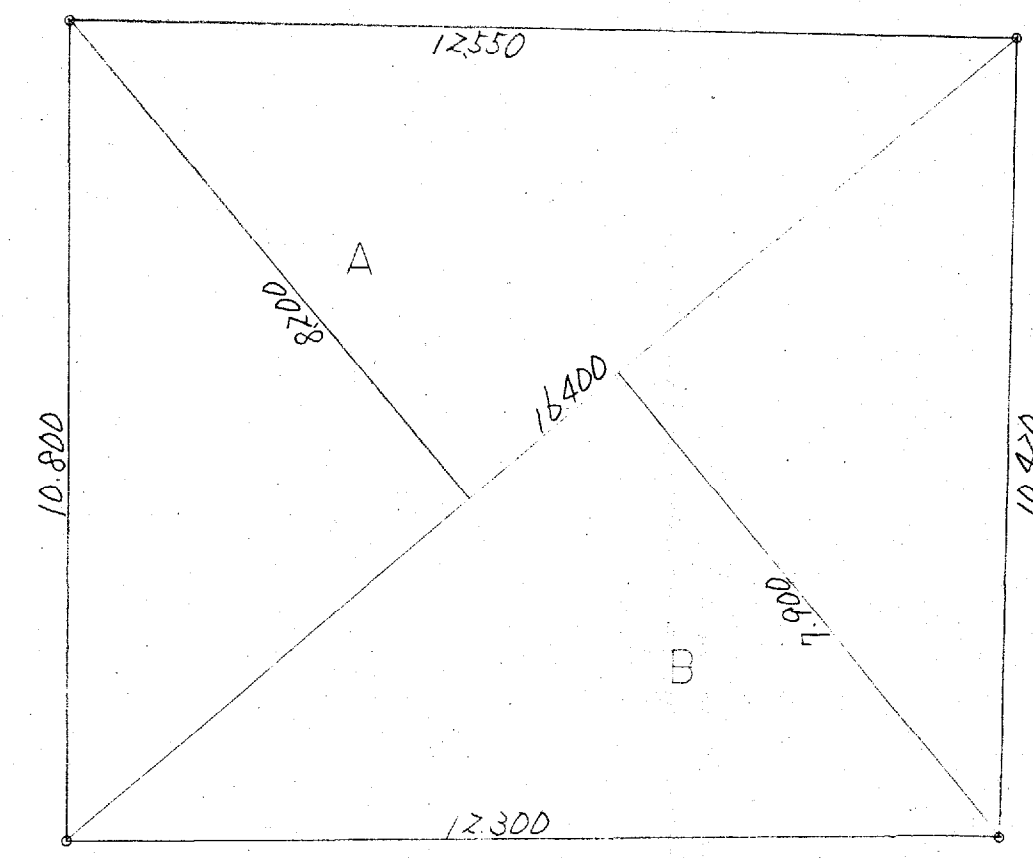
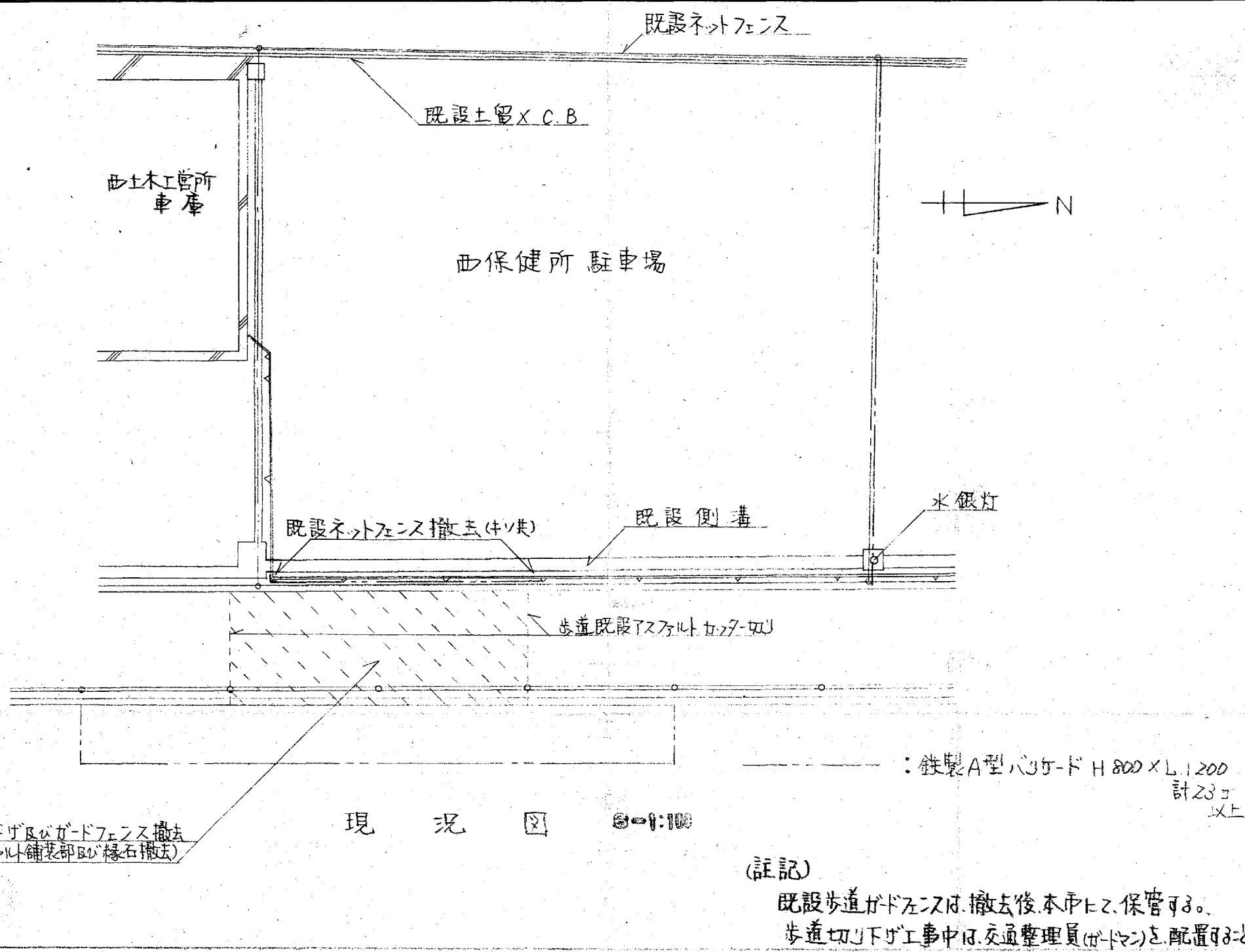
市立図書館

市立病院

市立事務所

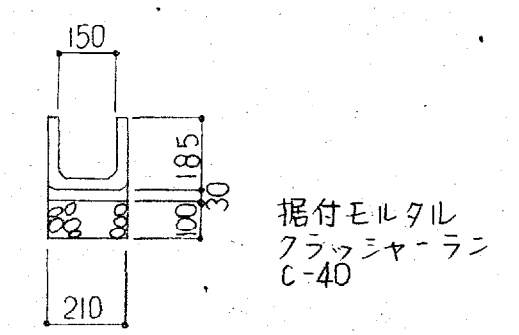
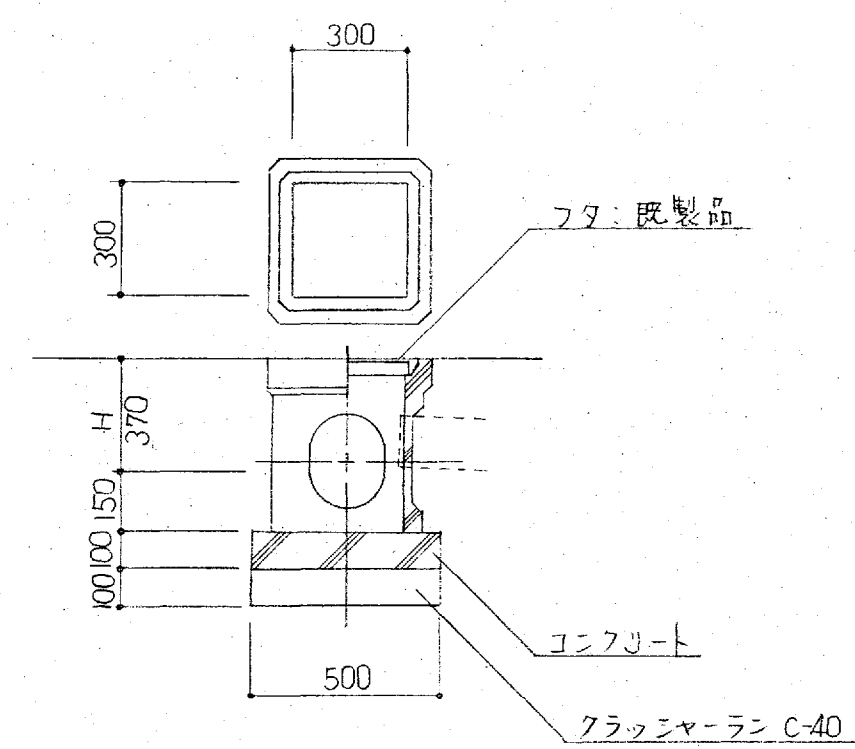
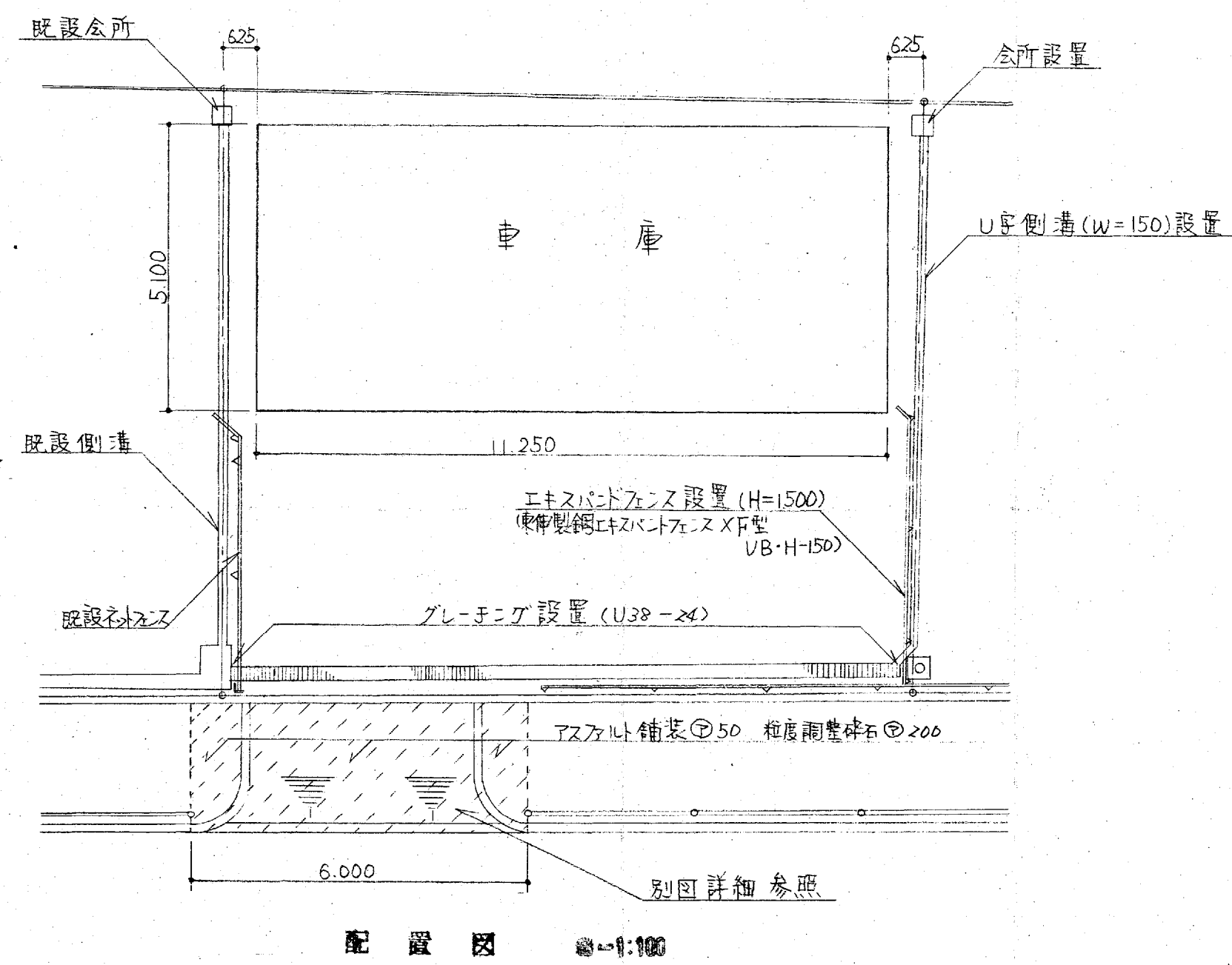
[illegible]

縮尺、寸法、方位、敷地の境界線、敷地内における建築物の位置、申請に係る建築物と他の建築物との別並びに敷地に接する道路の位置及び幅員



敷地面積表

A:	$16.40 \times 8.20 \times \frac{1}{2}$	$= 67.44$
B:	$16.40 \times 7.90 \times \frac{1}{2}$	$= 64.78$
A + B		$= 132.22$



工事名 西保健所防疫車車庫整備工事	
配置図	8-1:100
敷地面積表	8-1:100
詳細図	8-1:20

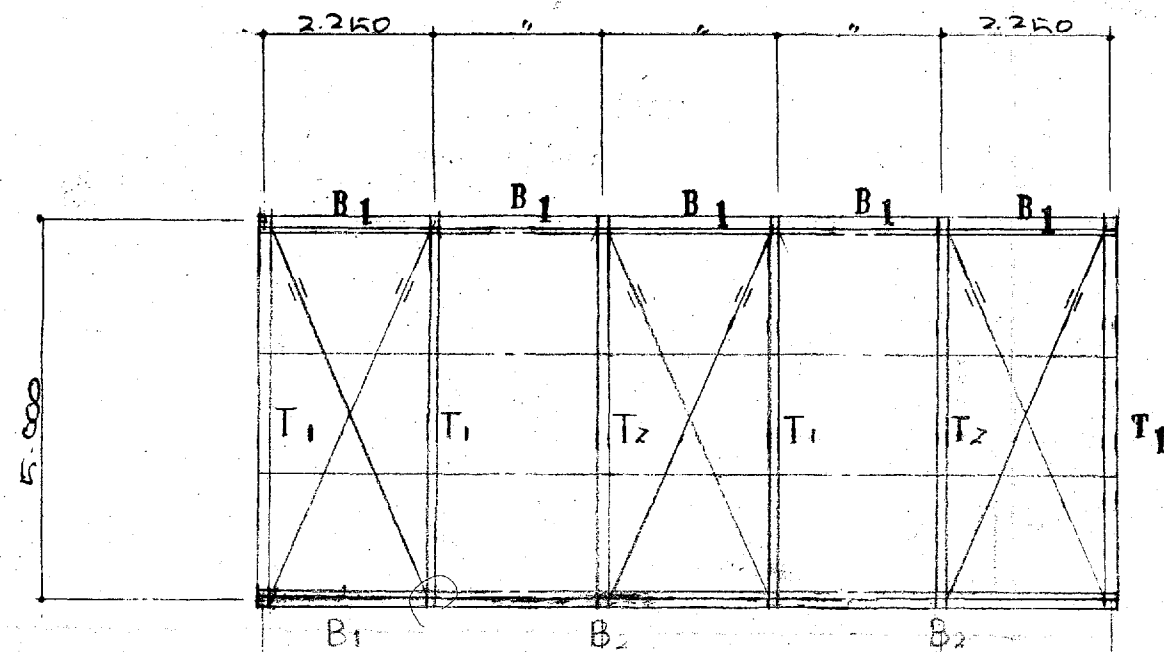
決定
62.11.17
浅井 保

一屋根 ルーフデッキ カラ-①0.5

一母屋 B-75×45×15×2.3
ネコ L-50×50×4

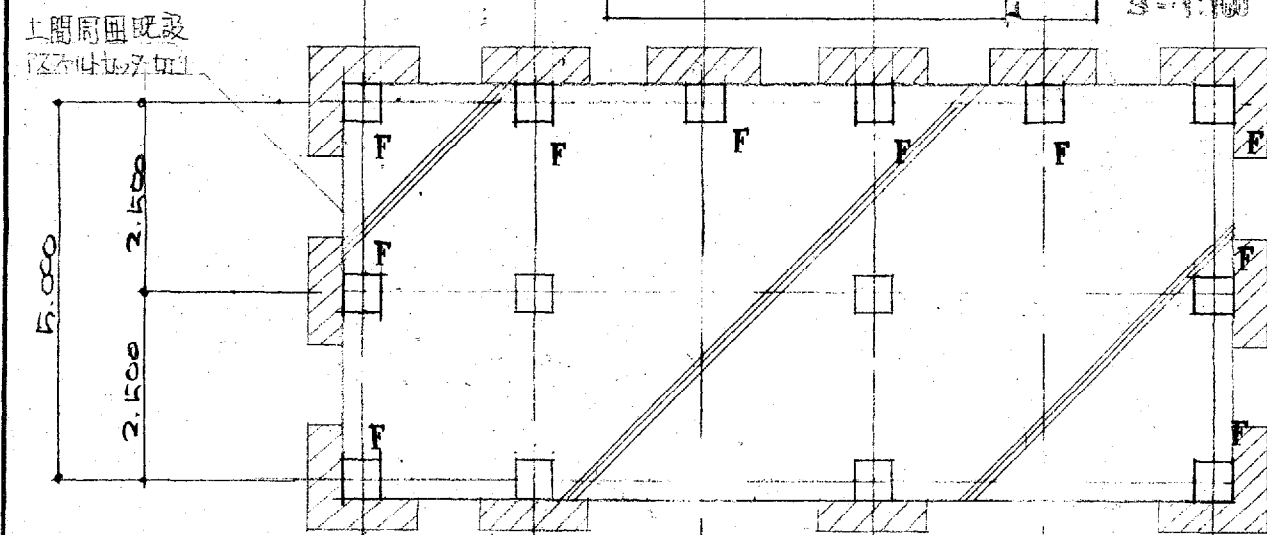
側立面図

80:100



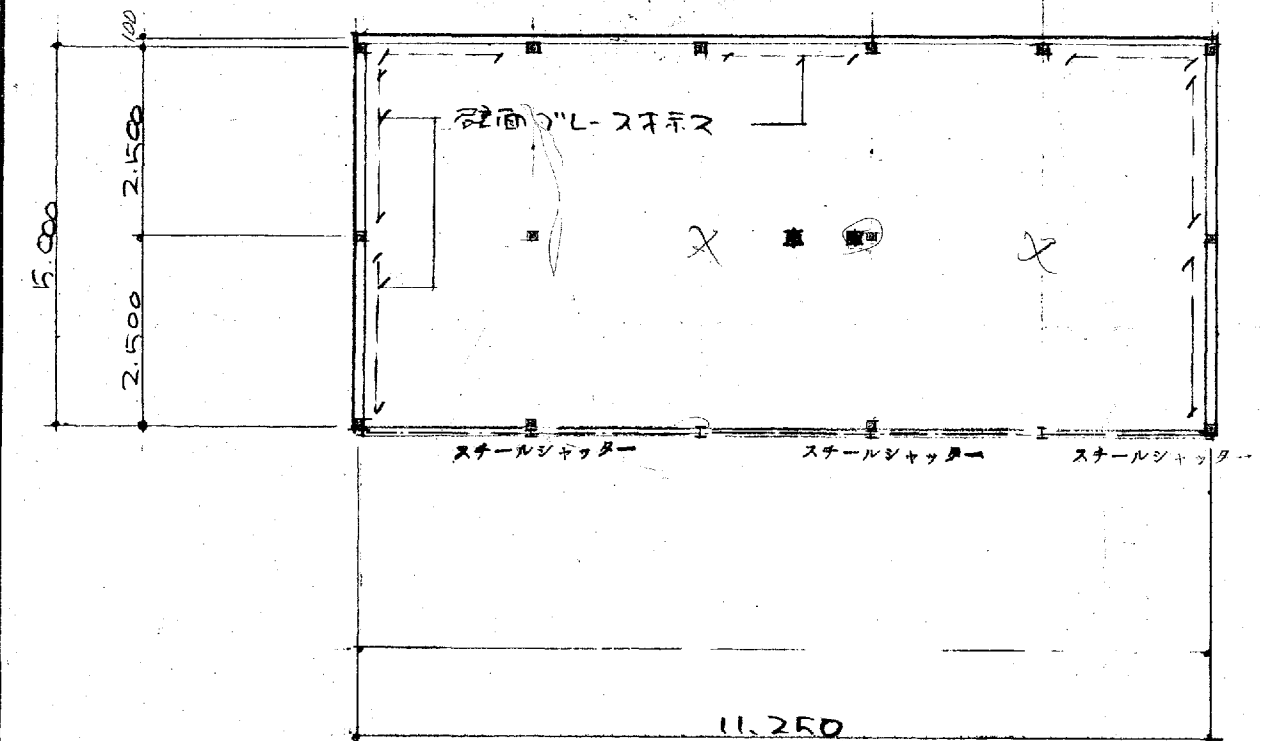
小屋伏図

80:100



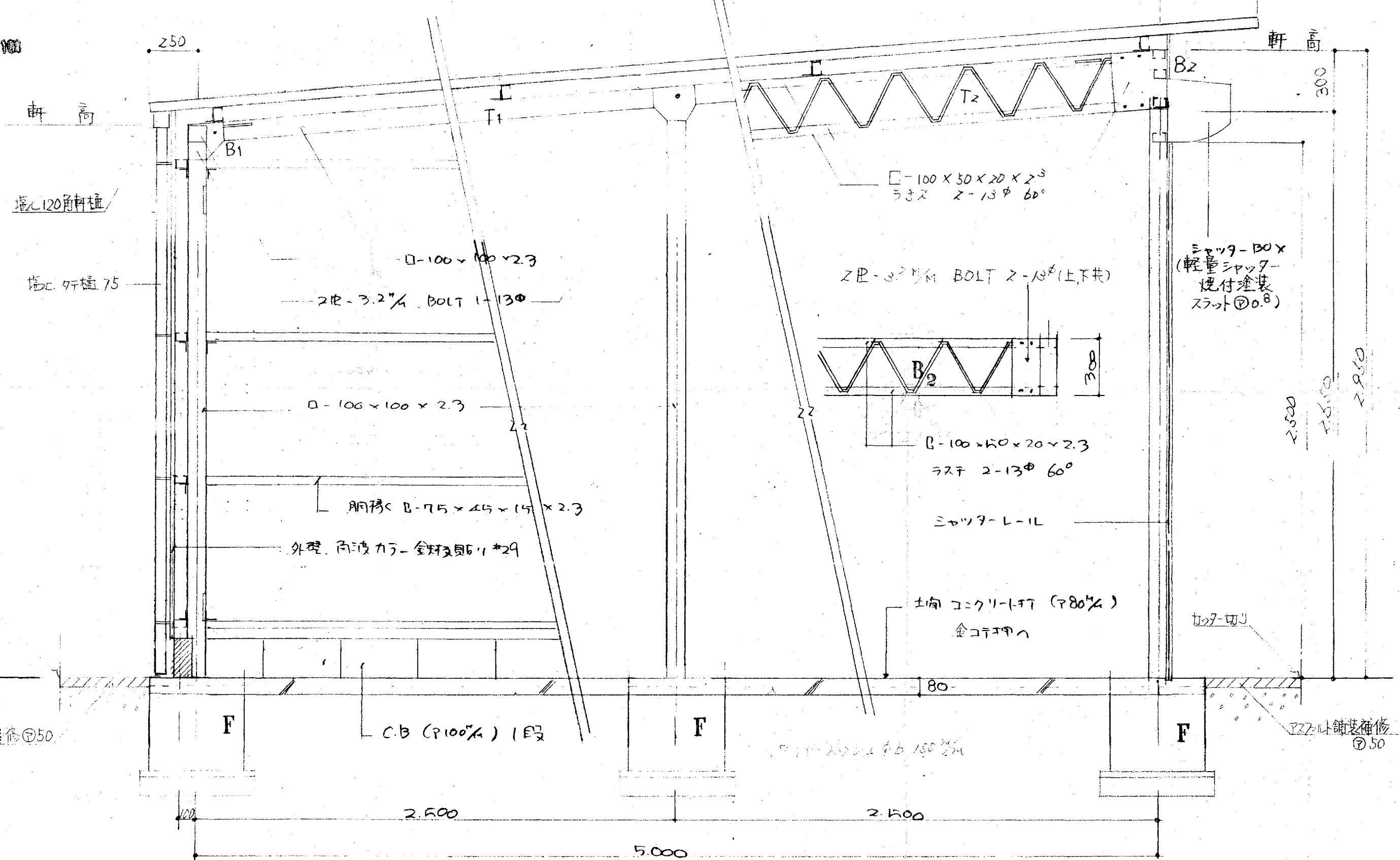
基礎伏図

80:100



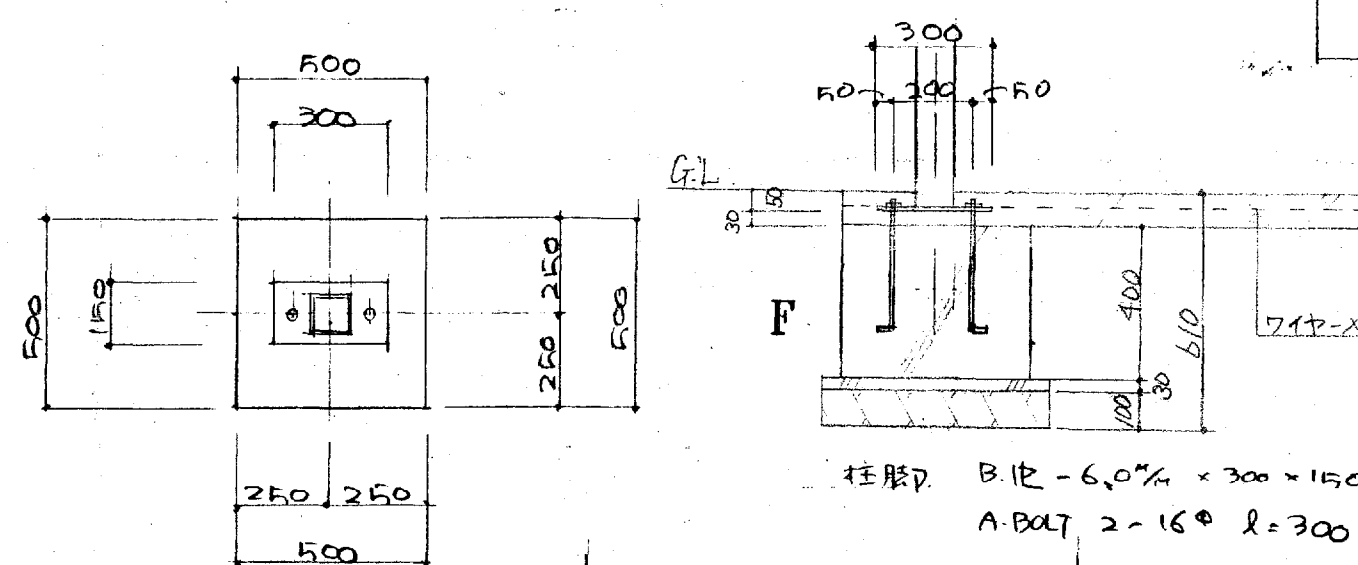
平面図

80:100



矩計詳細図

(註記) コンクリート: 基礎 土間床 $F_c=180 \text{ kg/cm}^2$
80:100

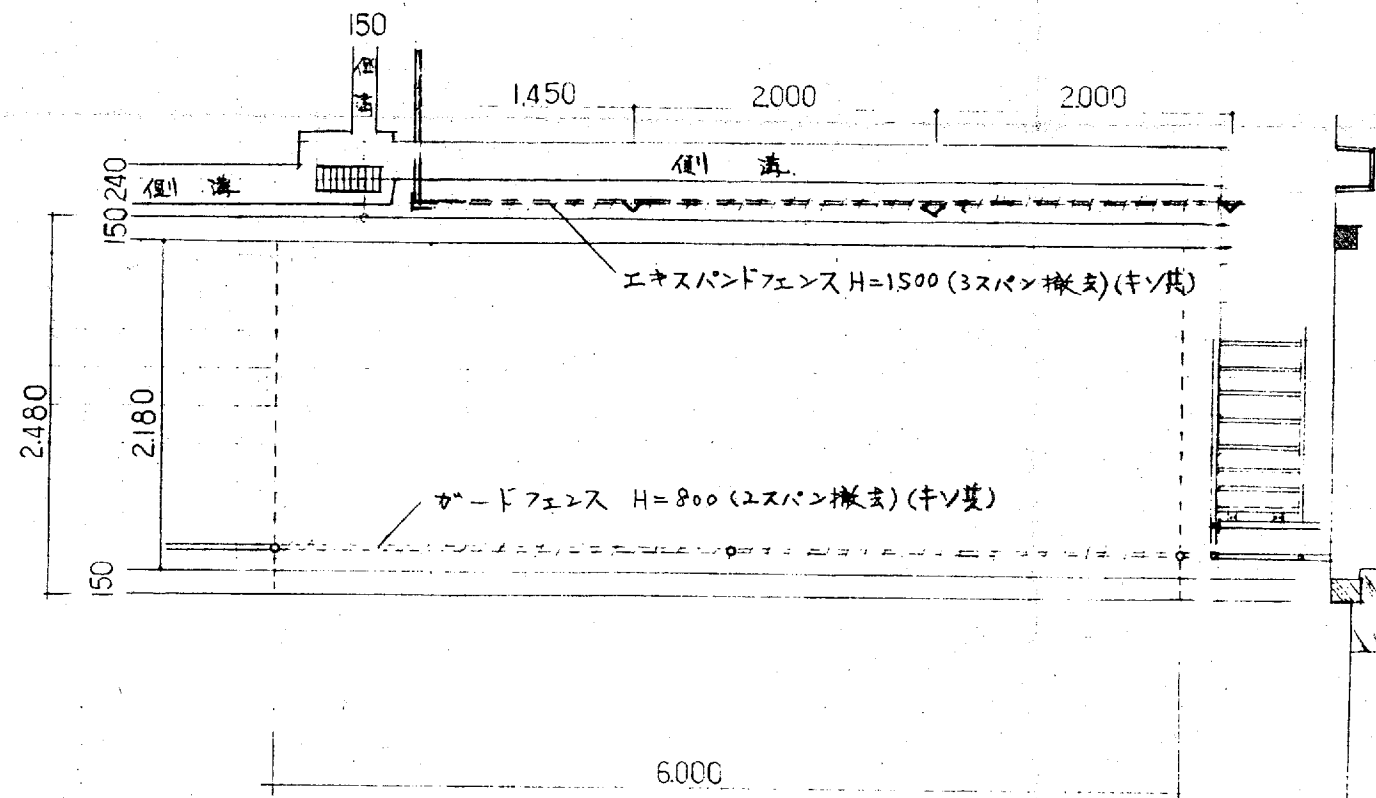


基礎詳細図

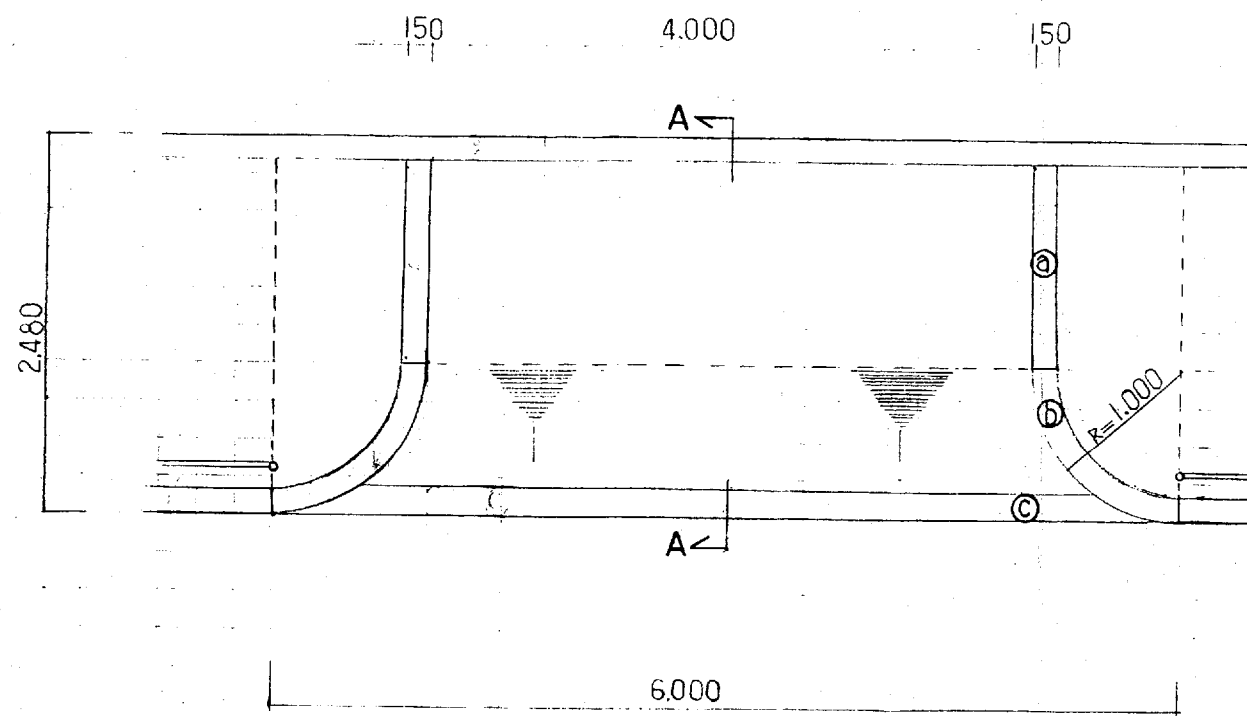
80:100

仕 材 書	
柱	D-100×100×2.3
梁 (T1)	D-100×100×2.3
梁 (T2)	2B-100×50×20×2.3 D=300 772 2-13φ 60°
桁 (B1)	D-100×100×2.3
桁 (B2)	2B-100×50×20×2.3 D=300 772 2-13φ 60°
上 下	B-75×45×15×2.3
胴 材	B-75×45×15×2.3
フロー	B12-6% 並/他 3.2%
ボルト	A-BOLT 13φ 柱間 13φ 桁/胴材 9φ
屋根	ルーフデッキ カラ-①0.5
外壁	内波カラ-金板鋼板 11 #29
ガラス	小窓 9φ 壁面 9φ (9-ニバツリ付)
仕 材	サビ止 1回 D.P. 塗 2回

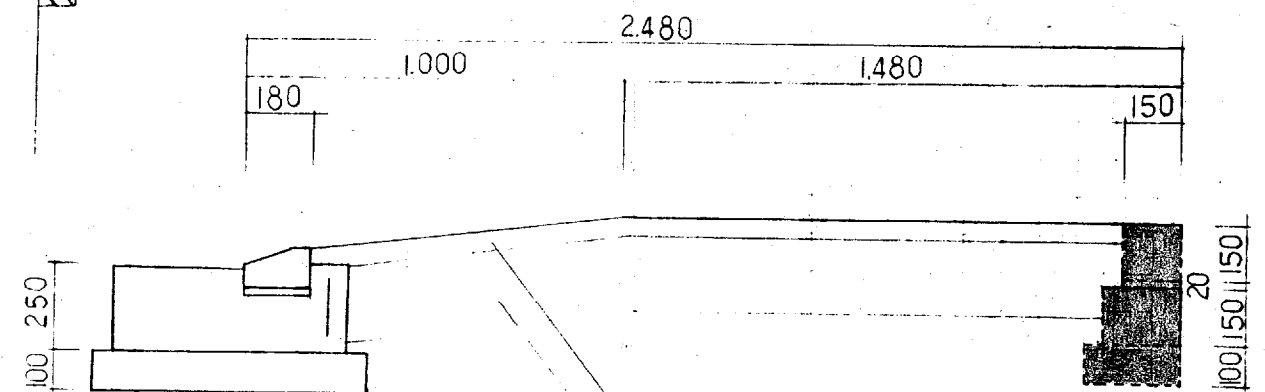
※車庫本木×カ-: 関西プレイング商事(株) PA-D型変形 同等品以上とする。



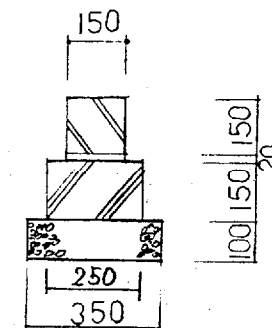
歩道現況図 1/50



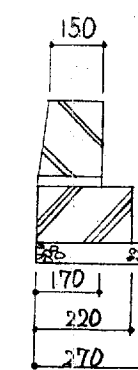
歩道切下平面図 1/50



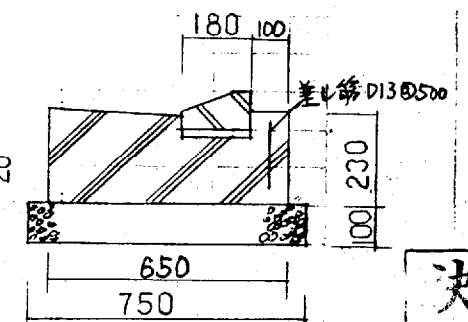
A-A断面図 1/20



㉓断面図



㉔断面図



㉕断面図

決定
62.11.27
建築課

工事名	西保健所 防疫車 車庫整備工事
歩道現況図, 歩道切下平面図	1/50
A-A断面図	1/20
縁石断面図	1/20

構造計算書

目次

昭和 62年 月 日

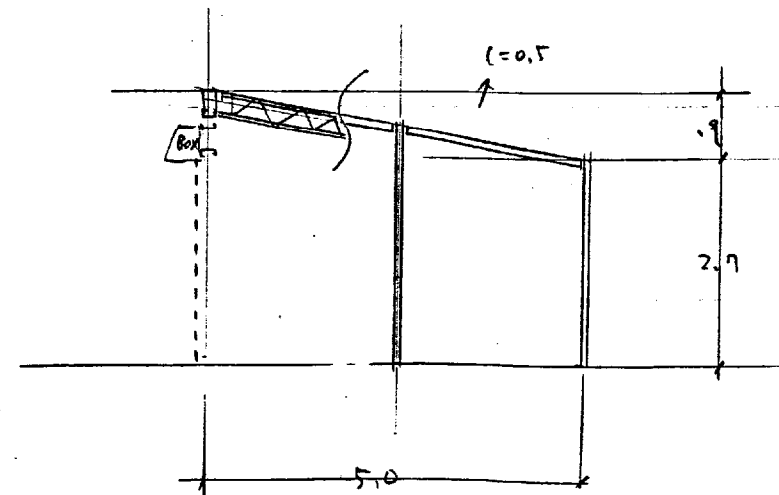
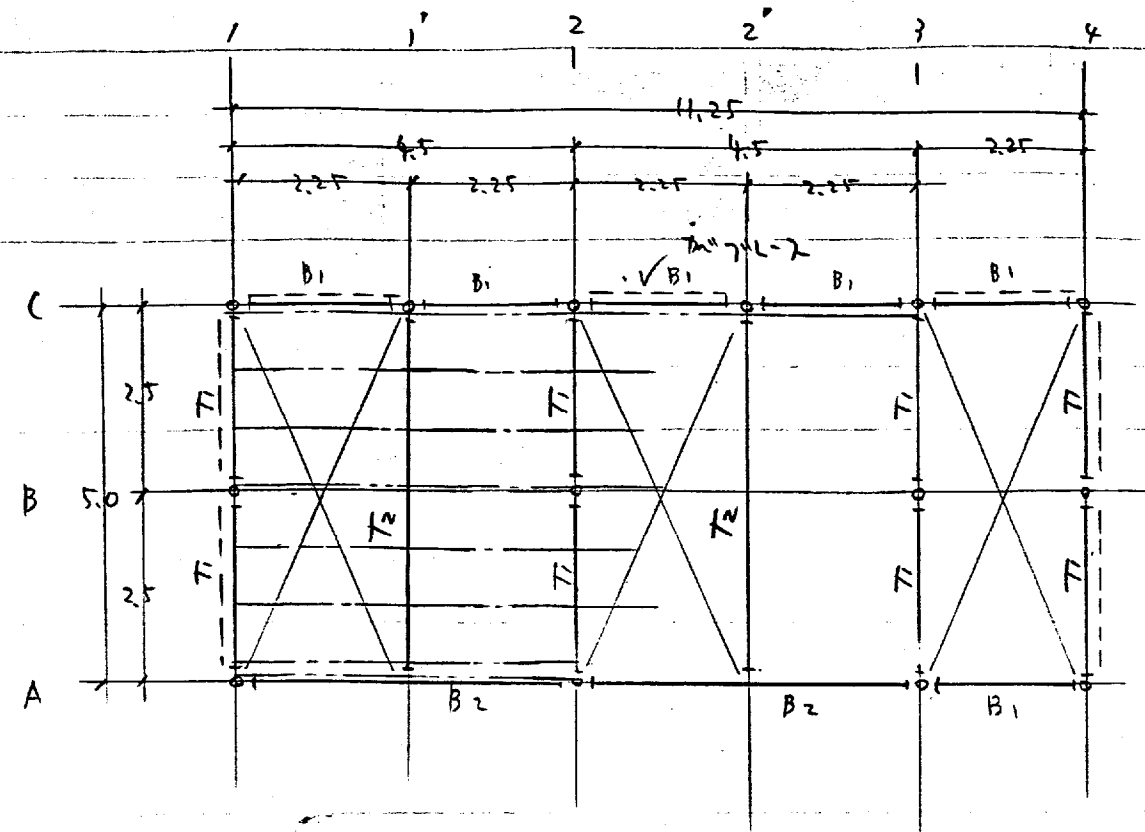
§ 1	一般事項	-----	1、
§ 2	小梁・等の設計	-----	2、
§ 3	準備計算	-----	—
§ 4	応力解析	-----	—
§ 5	断面決定	-----	—
§ 6	2次設計	-----	—
§ 7	基礎の設計	-----	5、
§ 8	その他追加設計 及び参考資料	-----	
§ 9	変更事項	-----	

工事

設計者

PA-D変型

S 1 一般事項		P- 1	
b. 設計上採用仮定			
1-1 建物概要	1) 基本震度	⊙C _o =0.3 ・C _o =0.2 ・C _o =0.1	
建築位置			
建築面積	2) 積雪		
規 模 ・塔屋 一 階 ・地上 / 階 ・地下 一 階	最深積雪量 20 cm 単位重量 2 kg/m		
主体構造 ⊙鉄骨造 ・RC造 ・壁式RC造 ・	3) 風圧		
用 途 ・車庫	速度圧 q=60*/h= kg/m^2		
仕上概要 ・屋根 スレート ・天井 瓦し	4) 土圧係数 K _a =		
・床 土間 ・内壁 瓦し	5) 積載荷重低減	・有 ⊙無	
・外壁 瓦し 角折版	6) 地震時応力低減	・有 ⊙無	
1-2 設計方針	1-3 材料の許容応力度		
本計算書は、建築基準法 同施行令、日本建築学会計算規準に依る 計算は、SEIKO 9100 2L (ユニオンシステム製ソフトに依る)	1) 普通コンクリート kg/cm^2	⊙F _c =180 ・F _c =210 ・F _c =225	
a. 構造計画	2) 鉄筋	・SR24 ⊙SD30 ・SD35	
1) 架構計画	3) 鋼材 許容応力度 (長期) 母材 仕口		
⊙ 1/2 方向共 柱脚 100mm の フレーム 構造 とす。	kg/cm^2	突き合せ すみ肉	
⊙ 1/2 方向 1 とす (各条件 0.1)	⊙SS41級 圧引曲 1600 せん断 1600	831 831	
⊙ 1/2 方向 同時 水平 時の 建物 の ねじり は、1.4 倍 の に	・SM50級 圧引曲 2200 せん断 2200	1980 1140 1140	
・ 耐力 を 生じ させ、その 耐力 は 1.4 倍 の フレーム に	4) ボルト 許容応力度 (長期) kg/cm^2	引張り せん断	
・ 処理 する。	⊙仕上りボルト 1200 1面 2面	900 1800	
	・高力ボルト (F10T) 3100 1500 3000		
	・アンカーボルト (黒皮) 1266 - -		
	⊙同上 (SS41) 1600 (JIS-B1180)		
2) 設計位置	1-4 地盤の許容応力度		
3) 基礎工法 ・独立 2 基	位置及び地盤種類		
4) 特殊荷重	地耐力 長期 10 t/m^2 短期 70 t/m^2		
5)	杭耐力 長期 t/本 短期 t/本		



屋根 スト
巾 25
5.) 30 1/2
梁自重 10) 40
壁 鉄筋版
用 25
5) 30
柱 10) 40 1/2

	5	小窓	1	F
D.L	30	40	40	40
I.L	40	20	20	-
T.L	70	60	60	40

§2 小窓、等の設計

2-1 小窓

T_1 $\frac{P}{2.5}$ $P: (.06+.04) \times 2.25 \times 2.25 = .20$ $D-100 \times 100 \times 2.3$ $Z_x = 27.7$
 $M_0 = .17$ $I_x = 140$ $t_b = 1.6$
 $\therefore \frac{.17}{27.7 \times 2.4} = .25 < 1.0 \text{ ok}$
 $\delta L = .226$ $\delta S = .377$ $\therefore \text{ok}$

T_2 $w: (.06+.04) \times 2.25 = .23$ $2C-100 \times 50 \times 20 \times 2.3$ $Z_x = 121$
 $M_0 = .72$ $I_x = 1820$ $A_f = 5.17$
 $\therefore t_b = \frac{900 \times 5.17}{250 \times 30} = .62$
 $\therefore \frac{.72}{121 \times .62 \times 1.5} = .64 < 1.0 \text{ ok}$
 $\delta L = .2932$ $\delta S = .4897$ $\therefore \text{ok}$

542 $Q_s = .575$ $P = \frac{.575}{2.4} = .232$
 2-13 ϕ $j = 30 - 2 \times 1.68 = 26.64$ $\frac{j}{t_w Q} = 30.7$
 表 T11 $\phi D = 2.1$ $> .332$ $\therefore \text{ok}$

B1 計算外 D-100×60×2.3 とする。

$P: 1.7 \times 0.6 \times 2.25 \times 2.6 = 3.51^+$
 $W: 1.7 \times 0.4 \times 3.6 = 1.5^+$
 $M_0 = 1.78$
 $D = 1.513$

$2C-100 \times 50 \times 20 \times 2.3$
 $ZX = 121$
 $IX = 820$
 $AF = 5.17$
 $tb = \frac{900 \times 5.17}{225 \times 30} = .67$

$\therefore \frac{78}{121 \times .67} = .93 < 1.0 \text{ ok}$

$\sum L = .384^+ \text{ 十分 ok}$

542 は T_2 と比較して、2-13φで十分 ok

2-2 母屋・胴縁 表側

$(-175 \times 45 \times 15 \times 2.) = 1.7^+ \text{ 十分 ok}$
 (計算外)

2-3 屋根ガル-2 9φ 127 十分 ok

2-4 壁ガル-2

全地震力
 $1.04 \times 5.2 \times 11.5 =$
 $1.04 \times 1.35 \times 21.25 =$
 $1.04 \times 5 \times .9 =$
 $1.04 \times 3.6 \times 11.75 =$
 $5.34^+ \quad \phi = 1.61^+ \quad (C_0 = 0.3)$

風圧 ↓
 $1.99 \times .8 \times 1.8 \times 11.5 =$
 $1.99 \times .4 \times 1.4 \times 11.5 =$
 $1.07 \times .5 \times 5.2 \times 11.5 \times 1.1772 =$
 $1.99 \times 1.2 \times 8.32^m = .99^+$

1.4 通いガル-2

(AE)
 $\leftarrow P = \frac{2.85^+}{4} = .72^+$
 $q = 4.38$
 $H = .72 \times \frac{4.38}{2.5} = 1.27^+ \rightarrow 13\phi$
 $RH = 2.39^+ > 1.27 \text{ ok}$
 2-H16 GR-6

B 通いガル-2

(地震)
 $\leftarrow P = \frac{1.61^+}{3} = .54^+$
 $q = 3.51$
 $H = .54 \times \frac{3.51}{2.25} = .85^+ \rightarrow 13\phi \text{ 十分 ok}$

ねじの考え方

$\leftarrow P = 1.61^+ (\text{地震})$
 $e = 5.0/2 = 2.5^m$
 $M_e = 1.61^+ \times 2.5^m = 4.025^+ m$

屋根は小屋ガル-2に付剛なと考えた上図の様には V (反力) が生じる。
 $\therefore V = \frac{M}{L} = \frac{4.025}{11.25} = .36^+$

これは ↓ 方向時風圧は 1.4 通いガル-2 の設計を
 しているので $(2.85^+/2 = 1.43^+ > 0.36^+)$ ok である。

壁アールス 接合部の設計 (I)				ポルト HTB FLOT				単位 t & cm											
鋼材 SS41																			
	13Φ (FB-65×6)	16Φ (FB-65×6)	19Φ (FB-65×6)	22Φ (FB-65×6)	FB- 65×6	FB- 75×6	FB- 90×6	FB- 100×6	FB- 65×9	FB- 75×9	FB- 90×9	FB- 100×9	FB- 125×9	FB- 90×12	FB- 100×12	FB- 125×12	FB- 150×12		
A _g cm ²	1.33	2.01	2.84	3.80	3.90	4.50	5.40	6.00	5.85	6.75	8.10	9.00	11.25	10.80	12.00	15.00	18.00		
A _d cm ²	(1.02)	(1.02)	(1.02)	(1.02)	1.02	1.02	1.02	1.02	1.53	1.53	1.89	1.89	2.07	2.52	2.52	2.76	2.76		
A ₁ cm ²	0.997	1.507	2.13	2.85	2.88	3.48	4.38	4.98	4.32	5.22	6.21	7.11	9.18	8.28	9.48	12.24	15.24		
RN = A ₁ × 2.4 t	2.39	3.61	5.11	6.84	6.91	8.35	10.51	11.95	10.36	12.52	14.90	17.06	22.03	19.87	22.75	29.37	36.57		
1.2 × A _g × F t	3.83	5.79	8.18	10.95	11.24	12.96	15.56	17.28	16.85	19.44	23.33	25.92	32.40	31.11	34.96	43.20	51.84		
① 筋直轄部で破断する場合 A ₁ × 4.1 t	4.08	6.17	8.73	11.68	11.80	14.26	17.95	20.41	17.71	21.40	25.46	29.15	37.63	33.94	38.86	50.18	62.48		
② 筋直轄部のファスターで破断する場合 一面せん断耐力 > RN t 0.75 × m × m × A × 10 > 1.2 × A _g × F t	2-M16 9.06 30.15	2-M16 9.06 30.15	2-M16 9.06 30.15	2-M16 9.06 30.15	2-M16 9.06 30.15	3-M16 13.59 45.22	3-M16 13.59 45.22	3-M16 13.59 45.22	3-M16 13.59 45.22	3-M16 13.59 45.22	3-M20 21.19 70.65	3-M20 21.19 70.65	3-M22 25.65 85.50	4-M20 28.26 94.20	4-M20 28.26 94.20	4-M22 34.20 114.00	5-M22 42.75 142.50		
③ ファスターのねじ部で破断する場合 m × b _e × b × 4.1 > 1.2 × A _g × F t 2																			

2-5 柱の設計

軸力

$$1\text{-C柱} \begin{array}{l} \text{上} \\ \text{下} \end{array} \begin{array}{l} 106 \times 2.25 \times 2.6 \\ 104 \times 2.7 \times 2.25 \end{array} \begin{array}{l} \approx 1.6^+ \\ \approx 1.6^+ \end{array}$$

$$2\text{-B柱} \begin{array}{l} \text{上} \\ \text{下} \end{array} \begin{array}{l} 106 \times 2.25 \times 2.6 \\ 104 \times 2.7 \times 2.25 \end{array} \begin{array}{l} \approx \sim \\ \approx \sim \end{array}$$

$$2\text{-A柱} \begin{array}{l} \text{上} \\ \text{下} \end{array} \begin{array}{l} 106 \times 2.25 \times 1.5 \\ 106 \times 2.25 \times 2.6 \\ 104 \times 3.6 \times 4.5 \end{array} \begin{array}{l} \approx 1.21^+ \\ \approx 1.21^+ \\ \approx \sim \\ \text{最大} \end{array}$$

$$D-100 \times 100 \times 2.3 \quad A = 8.85 \quad \lambda_k = 360 \quad \lambda = 91 \quad f_c = 19.81$$

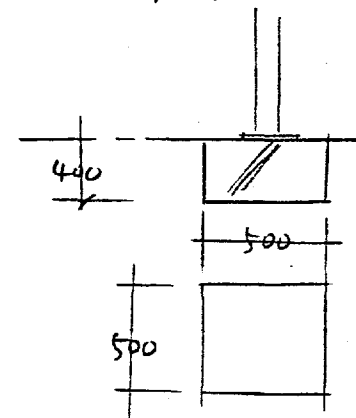
$$\frac{1.21}{8.85 \times 19.81} = 1.14 < 1.0 \quad \text{OK}$$

P-5

§7 基礎の設計 設計地面圧力 10^7 N/m^2 OK

※ 各柱、地中固定の独立基とする。

なお 柱脚のせん断力は 土間コンクリートに直接吸収されるものとする。



$$N_L(\text{max}) = 1.21^+$$

$$\text{キリ自重} \quad 5 \times 5 \times 4 \times 2.4 = 2.4^+$$

$$\Sigma H = 1.45^+$$

$$\sigma = \frac{1.45}{1.5 \times 1.5} = 5.8 < 10^7 \text{ N/m}^2 \text{ (設計)} \quad \text{OK}$$

ベース板は 基礎ベースの厚みが十分厚いので
コンクリートのせん断力に7. 係数と考える。

ベース板はなしとする。